

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートII		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600941&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市羽屋21番1の212 チュリス古国府庁舎番館 1F		
訪問調査日	平成26年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人がその人らしく、暮らせるように家族や地域の方を巻き込んで支援に力をいれている。 食後の口腔ケアは大事だと認識しているため、力をいれている。 課題にぶつかった時には解決に向けての話し合いを職員全員で行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年に開設した事業所では、経年による高齢化(平均89.6歳)・重度化という現状に、利用者一人ひとりに寄り添い日常生活の中で活性化を図り、「その人らしく」を視点にしたケアに取り組む中で、利用者の特性や個性等を把握し趣味(琴、笛、オルガン)の継続や特技を発揮し、心身の状況に応じた細やかな支援により、その人らしい生活が継続されています。また、事業所では地域交流に力を入れており、月1回開催される「喫茶の日」では、年々、近隣の参加者が増えており、利用者と楽しく会話をし交流を深めています。法人の理念を基に構築した、事業所の理念「や、さ、し、く」に伴う、4つの行動指針は明解で職員にも浸透し、共有と実践に繋げており、利用者、家族が安心して暮らし続けられるよう、楽しく家庭的な雰囲気をも大切に取組む姿勢が伺えます。事業所内の研修や勉強会を通し、職員のスキルアップに繋げるとともに、市内同業者との勉強会や交流会に参加し、他事業所での実践の成果に学び、自分達の実践を客観的に見て、サービスの質の向上に繋げています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時、理念の唱和を行い利用者のケアについて意見を出し合い統一を図っている。	法人の理念に加え、日々のケアの実践を通して作成された事業所独自の理念を、ホールに掲示しミーティング時唱和することで全職員で共有しています。管理者と職員は、利用者の尊厳と地域に根差した温かみのある事業所を目指し、向上心を持って取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に回覧板を持って行ったり草きりや街頭指導に参加している。また、月に一度喫茶の日を設け、近所の方に来て頂き、皆で過ごしている。また、夏祭りでは、看板を作り門扉に掲示したり、校区内の家庭に新聞にチラシを入れた。	利用者とともに地域の行事に参加したり、職員が美化活動に参加するなど、交流の機会を多く持ち地域との絆を深めているのが伺えました。また、事業所で開かれる「喫茶の日」には近隣の方々が訪れ、利用者と一緒に楽しく会話されている姿が見られました。	事業所は、自らの専門性を活かした地域貢献のために、認知症啓発活動、介護技術の勉強会の開催を計画しています。市に相談し、地域包括支援センターに協力を仰ぎ、実現されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のテーマとして、認知症についての勉強会の開催を掲げてはいるが、まだ、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の近況報告やテーマに沿って意見やアドバイスを頂き、サービス向上に向けて努めている。	運営推進会議は、各分野からの委員で構成され、定期的に開催されています。事業所の活動及び利用者の生活状況を説明しており、参加者からも意見、質問等が活発に出されています。意見等は職員で検討し、サービスの質の向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市職員がみえられ、サービスの取り組みや情報や意見を伺っている。また、会議の後にアドバイスを頂いている。	市の担当者とは、運営推進会議に出席された際に事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、情報の共有を図っています。また、市へ出向いた際は担当者に面会し、相談、助言を頂く等、積極的な連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会で知識を深め職員間で共有し実践している。自由に外出する利用者もいるが鍵はかけず、見守りや、その他のかかわりに対応している。安全確保の為、callマツを使用している。	身体拘束、虐待に関する勉強会を行う中で、利用者一人ひとりが抱えている根本的な不安や混乱を取り除き、尊厳を保持するケアを実践しています。また、パンフレットにも事業所としての「身体拘束等の排除の理念及び方針」が記載されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会を行っているが、施設には対象者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族に不安や疑問点などの話しを伺い、十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族からの苦情を記録に留め、苦情についての対応の会議をもっている。運営推進会議へのご家族の参加もあり、意見を出していただいている。	家族の意見や提案は、面会時や電話連絡時に聞き取っており、通常の会話の中にも意見・要望が含まれており、聞き逃さないように努めています。また、年2回家族会を行事(花見、敬老会)と兼ねて開催しており、家族と話す機会を作っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面接は行ってはいないが、会議やミーティングにて職員の意見や提案を聞いている。また、職員とのコミュニケーションに心かけている。	管理者は、日々の職員とのふれあいの中で相談に乗ったり、アドバイス等によりストレス対策に取り組むことで職員のモチベーションに繋がっています。職員の意見や提案は、事業所の運営向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に現場に来て、職員とのコミュニケーションを取り、現状を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会の必要な研修を行っている。また、資格を所得する為の研修やスキルアップ研修を勧めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の「認知症ケア研究会」や「小規模ほ一むの井戸端会議」等に参加し、同業者との交流をしながら勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に自宅訪問させて頂き、本人とお会いし、不安な事や要望等について伺い、本人の思いに向き合えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、御家族からこれまでの経緯などの話を伺い、安心していただけるように対応している。また、可能であれば毎日でも訪問して頂いて良いことや、日常の状況について、連絡したりしていくこととお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の経緯を伺う中で、本人や家族が必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じた作業を一緒に行う事によって共にする者同士の関係を築いている。(洗濯干し、洗濯物たたみなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションがとれる場を設けている。また、行事への参加や頻度の面会などの協力を頂き、共に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との馴染みの方が時々逢いに来て下さり、自室にてお茶を飲んだり話をされたり、馴染みの理容店で染髪している。	利用者一人ひとりの生活歴や家族への聞き取り、日頃の会話で馴染みの人や場所を把握しています。家族の協力で一時帰宅される方や馴染みの美容院へ行き、化粧を施してもらう利用者もあり、馴染みの関係を大切に、その人らしい生活が維持・継続できるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い者同士、本人の状況を考慮し座席を考えている。また、ひとつ屋根の下で暮らしている仲間同士なんだと思えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方には、本人の日常の様子を記入した介護サマリーを送っている。また、退所された家族の訪問もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉や表情、思いを把握するように努めている。また、困難の方には検討している。	各職員は、担当の利用者を決めて、思いや意向の把握に努めています。特に発語困難な方や言葉にしやすい思い等は顔色や表情で読み取ってそれとなく声掛けをし、思いを実現できるように支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴を御家族にお聞きしたり、フェイスシートに詳しく記入して頂き把握に努めている。入所後も情報があれば書留め職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムや思いに合わせて出来る事を支援している。また、心身状態の変化にすばやく気づき現状にあった対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が原案を作成し、その後全職員で意見を出し合い、本プランを作成している。基本、3か月に1度のモニタリングを行い、必要時は見直しを行っている。	日々の生活の中で、気づきや変化等をその都度話し合い、支援のあり方について意見を出し合っています。利用者に合った支援の計画作成に努めるとともに、必要に応じてモニタリングを行い、介護計画の見直しも行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録表を活用し本人が発した言葉などを記録し職員で共有している。ケースに基づきチームワークで検討し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。また、体調不良等家族に連絡し報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院に行きな話をしたり、お茶を飲まれたりされている。また、月1回喫茶の日や読み聞かせのボランティアの方がみえられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得したかかりつけ医となっている。また、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられる体制をとっている。	入居時の説明にて、家族・本人の意向を確認し決められています。職員同行での受診は、看護師より家族に報告し、職員にも情報の共有が来ています。	病状に関しては情報の共有が出来ているようですが、個々の服薬の情報も誰が見ても分かるような工夫を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の体調や表情に気づき変化があったら報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を病院に提出している。入院中は病院、家族と連絡を取り合い、本人の状態を把握し、出来るだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、段階ごとに応じて家族、ドクター等を交えて話をし方向性を共有している。また、記録に留め職員と共有し今後の支援の統一を図っている。	重要事項の中で、対応の方針を記載し明確化されています。医師と連携する中、管理職が家族の意向を確認しながら職員の精神的なケアも行いながら看取っています。また、終末期の利用者の目線の位置に、時計や家族の写真を飾るなどの配慮をしています。	実践する前に介護計画を作成し、共通のケアが計画的に行え、実践したことの振り返りを行うことで、次のケアへのステップアップに繋がっていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行ってはいるが、定期的には行っていない。急変、事故発生時にはバイタルチェックを行い、看護師に状況を報告し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方との協力を得て、夜間を設定し避難訓練や消火訓練を行った。実際に利用者の誘導をして下さった。今年度は地域の方を巻き込んでの避難訓練を行った。	地域の方や消防署の協力にて、火災時の避難訓練を実施しており、実際に毛布を使用したの輸送訓練を行っています。備蓄品は同一法人にて別の場所にて保管されています。	施設内の環境を整備し、地震の対策を希望します。日中の避難訓練や消火訓練は出来ていますので、夜間想定マニュアルを作成しての訓練を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保するため、目立たずさりげない言葉かけをしたり自尊心を傷つけないような声かけをしているが、馴れ合い口調になりかねない言葉がある。その時は会議にて再度話し合いを行っている。	「人生の大先輩だから、まず、呼び方から」と苗字や名前で呼ぶことが統一されています。トイレ誘導時、耳元で声掛けしバットも目に触れないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い、言葉かけを行い、思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、またその時に体調に応じて希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れや髭剃りをさりげなく援助したり、入浴時の服を一緒に選んだりしている。入浴後に顔にローションをつけられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、厨房からおかずが来るが、職員と利用者が一緒にテーブルで食事をし、食後は一緒に下膳をしている。	テレビを消し食事に集中出来る環境の中、職員と一緒に同じ物を頂いています。弁当の方、食器の方と各々の食事動作の機能に適した器にしています。湯呑・箸も個人で準備して頂いており個別を大切にされています。肉も地元の食材を使用し、猪肉、鹿肉となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケース記録表に1日の水分量や食事量がわかる様に記録している。また、食欲低下のある方には、本人が食べたい物を食べて頂くように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食後には必ず口腔ケアを行っている。自分で出来る方にはして頂き口腔後の確認を行っている。また、1週間に一度義歯や歯ブラシの消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間、布パンツにパットを使用されている方がいる。尿意の無い方はトイレへの声かけを行い誘導している。また、パット外しも出来た方もおられる。	随時の、トイレ誘導やトイレサインを見逃さずにトイレ誘導を行うことで、オムツは使用せず日中は布パンツにパットとなっています。現在はパットも外されるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらうような声かけを行ったり、散歩や体操行なっている。それでも駄目な場合は粉寒天や下剤を服用し調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね曜日を決めているが、拒否や状況に応じて入浴している。本人の希望に応じ湯船に浸かったりされ、シャワーに足浴を行っている。	入浴日や時間を決めています。失禁者や拒否のあった方には臨機応変に対応しています。入浴剤を使用したり柚子湯にしたりと、楽しんで頂けるように工夫しています。入浴時間や湯温は個人個人に合わせて行っています。	拒否する方の対応が、対処療法だけに終わることなく、拒否の根本をチームで探り、介護職としてのケアに対する専門性がアップしていくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方は居室で休まれてる。また、夜間居室で寝られ方には本人が寝たい所で寝ている。(畳間や座椅子)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録表に服薬中の用途用法紙をファイルしている。飲み忘れ、飲みこみたかどうかの確認をしている。薬の効果にも、配慮するようにしている。(DM、浮腫)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、その人の力に応じて支援している。おやつ作りでは、材料を切ってもらったり、困難な方には、見て楽しんで頂いてもらう為に目の前で作る事がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段はいけな様な場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとり希望に応じて、チャリティショーや季節毎のドライブに行っている。また、家族会での外食は1名を除いて行えた。	近隣の店へ買い物に行き、馴染みの関係となっており、行楽の時季にはドライブに出かけています。体力的に外出や車での移動が困難な方には、ホームのテラスにて外の景色や風に当たって頂くなど、リビングに座りっぱなしにならないように配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持され、買い物や散髪に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話がいつでも出来る様に支援している。また、手紙やはがきのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を配り、心地良い環境作りを行っている。また、季節の飾りや花があり、季節感を取り入れている。	リビングの天窓のよしずから和らかい光が降り注ぐ中、季節の生花や飾り物があり季節感を十分に感じられる環境です。空調管理、特に湿度にも配慮され心地良い環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やウッドデッキに自由に入出入りが出来る。また、気の合った利用者同士が過ごせる様にソファを置いたり、独りでいられるように畳を敷いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの持ち込みのソファや鏡台、棚が持ち込まれている。また、家族写真やぬいぐるみなどが飾られている。	全部屋個室にてベット・タンスが据え置きとなっていますが、畳への変更も可能となっています。布団は各自の使い慣れた物となっていますので、部屋を開けた瞬間に個人の好みを感じられます。ベット柵には手作りのカバーをしており安全への配慮を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共に生活している中で、その人の出来る事、わかる事を理解し、自立に向けた支援をしている。トイレ時、立ち上がりや転等の無いようファンテーブルを利用している。		